

# 県庁別れと出会い



春は「別れと出会い」の季節である。学校では卒業生との別れがあり、新入生との出会いがある。役所や多くの会社でも定年者を送り、新人を迎える。

この季節、自然界では百花繚乱の花々との出会いがあり、北国に帰る渡り鳥との別れがある。ともに季節の変化によるものだが、社会生活に別れと出会いが生じるのは、「年度」が替わるからだろう。学校は「新学期」を迎え、役所や多くの会社では「新年度」になるからだ。

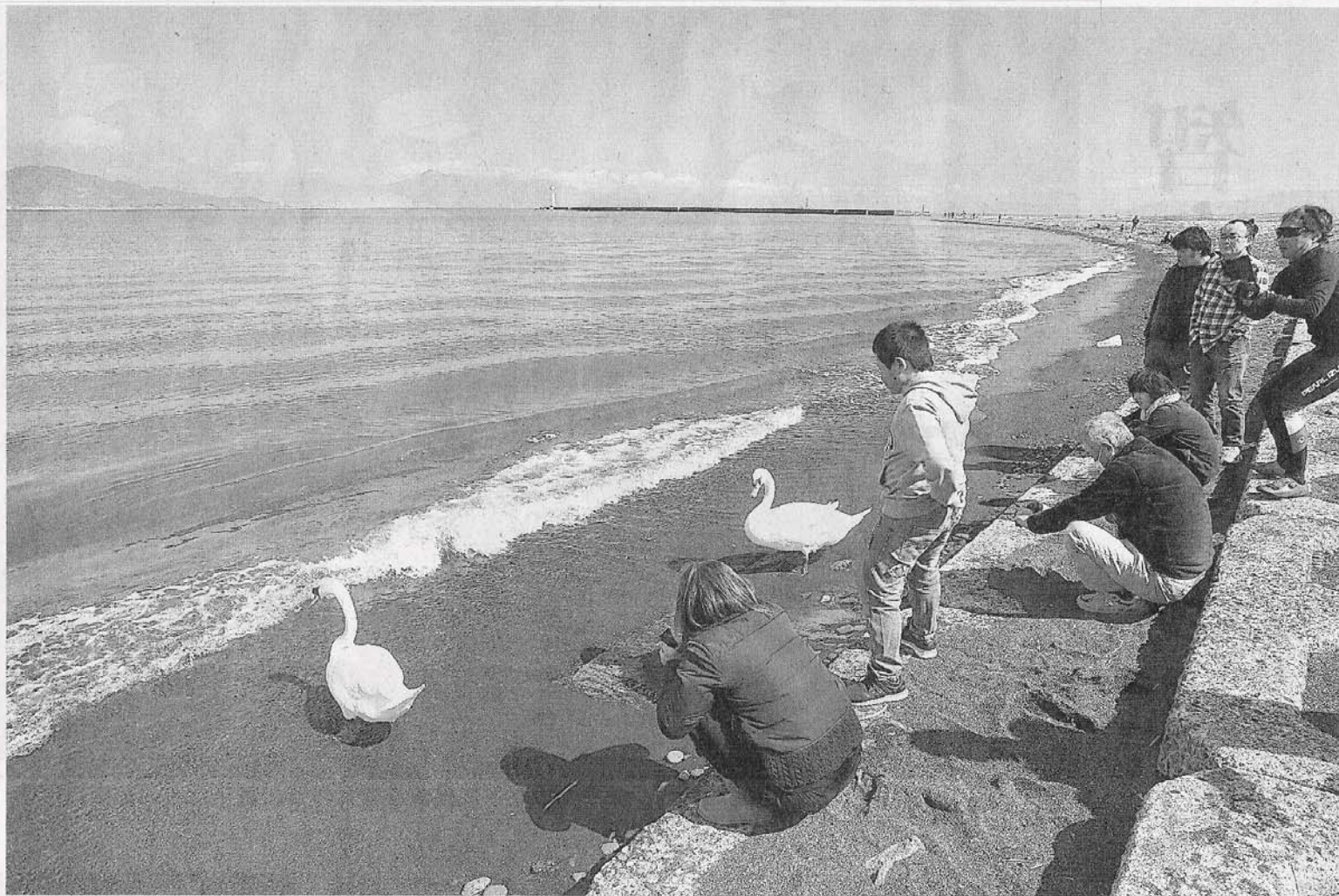
静岡県は、今年4月から向こう10年間の県づくりの方向を示す「新ビジョン」を策定した。県政の課題である人口減少対策、超高齢社会への対応、地震・津波対策などから、当初4年間に取り組む具体的な施策を8項目にまとめ、「基本計画」とした。防災、医療、福祉対策などからスポーツ・文化振興、国際交流などまで多岐にわたって目標や方向性が示されている。

自治体が政策を立案し、具体的な施策を施行するのは珍しいことではないが、今回の新ビジョンで際立つのはその理念の高さだろう。これまでよく使われてきた「富国徳のふじのくにづくり」A3の理念に「Dreams come true in Japan」という概念を付け加えた。誰もが夢を実現して、幸せを感じられる地域にすることを目指すという。横文字をめぐって論議もあつたが、県民がビジョンの理念を、より身近に具体的なイメージとして実感できるようにしたという。

4月1日から「新学期」を迎える県庁に、さわやかな改革がある。「全庁禁煙」である。4月からスタートする「第3次がん対策推進計画」の目玉の一つであるたばこ対策を進めるため、初めて踏み切った。

新学期の県庁で、県民は「夢」(Dream)と出会い、愛煙家は「たばこ」と別れる。

前静岡県監査委員・富永久雄



ハクチョウも「別れ」の時＝静岡市清水区三保、全日写真・薩川高宏さん撮影